

豚は中国人にとって、身近で大切な家畜



## 新年への希望をこめて

中国や台湾では新年の開始は旧暦にもとづく旧正月にしたがうのが一般的である。旧正月の新年は春節とよばれ、二〇〇五年は二月九日であった。春節の前は日本の暮れのように新年を迎える準備に忙しくなるのが中国や台湾の慣わしである。

新年を迎える準備のひとつに春聯の取替えがある。中国の一般的な家庭では、門や玄関の扉の左右と上部の三方所に、対聯とよばれる紅色の細長い紙が貼られている。対聯にはおめでたい言葉が書かれ、その家の人びとの思いや願い、そのときの家族の状態があらわされる。道行く人びとは対聯を見ることによつてその家で結婚した人がいたとか、昔ならば、科挙の試験に誰かが合格したとかいうことを知ることができた。対聯のなかでも新年にあたらに貼られるものを

# 六畜興旺 (リューツーシンワン)

野林 厚志 (のぼやし あつし)  
文化資源研究センター



牛小屋。牛は大武と表現されることも多い



六畜興旺の門紙

春聯とよぶ。最近では都心のスーパーやデパート、村の定期市で印刷された春聯や対聯が売られている。春節が近くなると赤地に金字で印刷された春聯が店先にぶら下げられる光景も珍しくなくなってきた。とはいっても、まだまだ春聯を自分の手で書く人は多い。多くの場合、一家の主が春節の前に、次の年への希望をこめて墨筆で成句や自ら考えた文言を紅色の紙にしたためていくのである。

## 幸せは六つの家畜とともに

新年を前にして、一家の主はあらたな春聯を精魂こめて書き上げる。その片手間に時々書いてしまうものに家畜小屋の扉に貼り付ける門紙がある。これは毎年、貼りかえるほどのものでもなく、いたって地味な感じで家畜の住まいに貼り付けられている。とはいっても、人間と動物との関係を研究テーマにしている筆者にとつてはとても気になるのである。

この門紙には多くの場合、「六畜興旺」といふ決まり文句が書かれる。六つの家畜が元気に

育ちますよという意味である。中国では代表的な家畜のことを「六畜」と表現し、その言葉の由来はかなり古くまで遡るとされている。「六畜興旺」という言葉のほかにも同じような決まり文句として、「六畜成群」や「大武興旺」という言葉もよく見かける。前者は家畜が群れをなすぐらくらいたくさん育ちますよという思いが込められている。後者は牛小屋に書かれていることが多い。家畜のなかでもっとも大きな牛は大武と表現され、立派に育つようにという意味の言葉が門紙に書かれているのである。

一般的に六畜とは豚、牛、羊(山羊)、犬、馬、鶏である。しかしながら、実際に家畜を育てている人たちに「六畜はなに？」とたずねると、鬼がはいていたり、アヒルを含めたりと、身近な動物が六畜に仲間入りすることも少なくない。広大な中国では、それぞれの地域で身近に養われる家畜も異なっている。それぞれの生活のなかで大切に育てられる動物たちのことを人びとは自分たちの六畜と考え、家族の幸福と繁栄を春聯で願い、家畜とともに豊かに暮らせることを「六畜興旺」という言葉で願うのである。